



# 新年のごあいさつ



新年あけましておめでとうございます

余市町長 齊藤 啓輔



謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

令和8年の新しい年を皆さまとともに迎えることができましたことを大変うれしく思います。

さて、昨年を振り返りますと、国内外で情勢の変化が相次ぎ、経済・気象ともに不確実性の高い一年となりました。北海道でも例年を上回る高温の日が続き、農業・水産業をはじめとする一次産業に影響が及びました。本町においても、気候変動を見据えた生産体制の強化や、防災・減災に向けた備えを一層進める必要性を改めて認識したところです。

そのような中であっても、余市町では、町民の皆さまの生活を支える施策を着実に前進させてまいりました。給食費・保育料・18歳到達年度末までの医療費無償化など、子育て支援の充実については、全国からいただく温かいふるさと納税が大きな支えとなっており、持続的に実施できる体制が整いつつあります。寄附者の皆さまの思いを町民サービスに還元する、この地域ならではの循環が確かな形として根づいてきました。

また、ワインをはじめとする食・農・観光の分野では、本町の強みを生かした取り組みが大きく進展した

一年でもありました。

昨年2月には、世界的銘醸地フランスのジュヴレ・シャンベルタン村と親善都市協定を締結し、気候変動への対応や人材育成などで国際的な連携が始まりました。さらに、北後志の各市町村と一体となった広域連携も一歩ずつ深化し、ワインだけでなく、食・農・観光全体を一体的にブランディングする基盤が整ってきています。

本町が進めてきた「地域の強みを核にし、その成果を町全体へ広げていく」取り組みが、ようやく形になり始めていると感じています。

また、高齢者福祉や医療、生活交通の確保など、地域生活を支える施策も引き続き丁寧に取り組んでまいります。

人口減少という厳しい現実が続きます。しかしその中でも、今ここに暮らす皆さまの生活を守り、子どもたちの未来につながるまちをつくることこそが、私たちの使命です。

本年も「住んでよかった、これからも住み続けたい」と感じていただける余市町の実現を目指し、職員一同、誠心誠意取り組んでまいります。

結びに、本年が町民の皆さまにとって健やかで実り多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年あけましておめでとうございます

余市町議会議長 藤野 博三



希望に満ちた令和8年の新春を迎え、心からお慶び申し上げます。

町民の皆さまには、日ごろから議会活動に対する温かいご理解とご支援を賜り、町議会を代表し、厚くお礼を申し上げます。

顧みますと、全国各地で猛暑や豪雨などの自然災害が頻発し、農作物の収穫量や品質に大きな影響が出るなどしており、気候変動への対応が急務となっております。

また、生活面では、エネルギー・食料品価格等の物価高騰が、地域経済や生活者に深刻な影響を及ぼしております。

国においては、昨年末でガソリン税暫定税率が廃止され、総合経済対策として、生活の安全保障・物価高への対応、危機管理投資・成長投資による強い経済の実現、防衛力と外交力の強化の3本柱の構成により、家庭・事業者の生活支援が中心に捉えられつつ、成長

分野への投資などを織り交ぜた経済対策が進められていく予定となっており、今後、重点支援地方交付金による地方公共団体における地域の実情にあった支援が行われることになっております。

本町では、豊富な食資源を持続的に生産、供給できる体制の充実や地域の食材をワインやウイスキーなどと共に食文化として発信し、活力ある地域づくりを目的としたガストロノミー推進事業が実施され、一次産業の活性化や各種プロモーション事業による観光客の増加を期待するところであります。

私ども議会は、本会議や常任委員会では日々活発な議論が行われていますが、町民の代表として研鑽を重ね、諸課題に積極的に取り組んでいく所存であります。議員としての品位、品格を保ち、町民の代表として議員一同、全力を挙げてその責務を全うしていく所存でありますので、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が町民の皆さまにとりまして、健やかで幸多い年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。